

**秋田支店が開設一〇〇周年
記念パネル展を開催**

▼秋田支店は、大正六年（一九一七）八月一日、東北地方では二番目、全国では十二番目に開設され、本年一〇〇周年を迎えました。これを記念し、八月九日から一三日までパネル展を開催しました。



記念パンフレット

▼パネル展では、支店や周辺の街並みの変遷をたどれる写真を中心に、支店の歴史を概観できるパネルにして設置。作成した職員自身が解説しました。

▼会場内ではスタンプラリー参加者にオリジナルうちわをプレゼントしたり、展示内容を凝縮した記念パンフレットの配布等



記念パネル展の様相

も行い、七〇〇人を超える来場者にご好評をいただきました。

▼また、支店一〇〇年の歴史を内容に織り込んだ支店長講演を管内各地で開催しているほか、清掃活動等にも取り組みました。こうした地域とのつながりを大切に、秋田支店は地域経済の発展に貢献していきます。

**熊本支店が
開設一〇〇周年行事を開催**

▼熊本支店は、秋田支店と同じ日の大正六年（一九一七）八月一日に開設され一〇〇周年を迎えました。九州では西部支

店（現北九州支店）に次いで二番目となります。昭和二十八年（一九五三）の熊本大水害を受けて、昭和三十二年（一九五七）には、開設当時の営業所から現営業所に移転し、六〇年が経過しました。

▼昨年、一〇〇周年を前に熊本地震が発生しました。地元との連携を密にしつつ、職員一丸と



左／記念製作「熊本城」に興味津々の見学者。右／夏休み親子見学会の様相

なって、金融インフラの機能維持に努めました。

▼一〇〇周年を記念して、地元の学校に熊本城や「火の国」をイメージしたオブジェの製作を依頼したほか、各種講演や親子見学会の企画、作文や絵画、写真の作品募集などを行い、県民の方との接点を増やしています。

**金融高度化セミナー
企業評価の高度化・
業務改革を開催**

▼金融機構局金融高度化センターは、七月三日に「企業評価の高度化」、七月二十四日に「業務改革」をテーマに金融高度化セミナーを開催しました。参加者数は、両セミナーとも五〇〇名近くに上りました。

▼「企業評価の高度化」セミナーでは、第一勧業信用組合・新田信託銀行の理事から企業評価の基礎となる経営者との対話や現場重視の評価の方法について、豊和銀行・権藤淳頭取からは取

引先企業の販路開拓支援を通じての本業支援について、それぞれ講演が行われました。

▼パネル・ディスカッションでは、南日本銀行・植之原邦彦 WIIIN WIIIN ネット業務部長、足利銀行・狩野浩二春日部支店長、金融庁・日下智晴総務企画局地域金融企画室長 検査局総務課地域金融機関等モニタ



企業評価の高度化の課題等が議論されたパネル・ディスカッション

上／人とコミュニケーションの金融について語る新田理事長。下／取引先企業の販路開拓支援について語る権藤頭取



リング長、但陽信用金庫・藤後秀喜常務理事が議論を行いました。「企業評価を活かしていくためには、評価情報を対象企業と共有していくことが重要である」との認識が示されました。

▼「業務改革」セミナーでは、りそなホールディングス・中田雅之デジタル化推進部長からメーカー出身の社外取締役と一



業務改革に関する論点について議論されたパネル・ディスカッション

上／オペレーション改革について語る中田部長。下／BPR戦略について語る中村相談役(撮影・野瀬勝一、張圭成)



緒に進めたオペレーション改革の概要に関して、名古屋銀行・中村昌弘相談役から頭取在任中に取り組んだBPR戦略に関して、それぞれ講演が行われました。

▼パネル・ディスカッションでは、飛騨信用組合・黒木正人専務理事、北國銀行・杖村修司専務、浜松信用金庫・津倉昭彦理事、武蔵野銀行・長堀和正専務が議論を行いました。「業務改革の推進には、リーダーのコミットメントやサポートする職員の熱意、システムへの理解、客観的な経営指標が必要である」との認識が示されました。

▼参加者からは、「登壇者の熱い想い・信念がひしひしと伝わってきた」「具体的な事例が紹介され参考になった」などの声が聞かれました。

▼以上のセミナーの講演およびパネル・ディスカッションの要旨・資料は、日銀HPの「金融システム」→「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

「えるぼし」最高レベルを取得しました!

▼日本銀行は、五月三十日、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況等が優良な事業主として、厚生労働大臣の認定「えるぼし」の最高レベルである第三段階を取得しました。

▼同認定は、女性活躍推進法に基づき、行動計画の策定および届出を行った事業主のうち、厚生労働省により定められた一定の基準を満たした事業主が受けられるものです。

▼認定基準の評価項目は、採用、継続就業、労働時間等の働き方、管理職比率、多様なキャリアコースの五つで構成されます。日本



「えるぼし」最高レベルを取得

編集後記

■本号の取材で宮城県気仙沼市を訪問した。震災後の2012年8月、前田理事（当時調査統計局長）とレンタカーで福島から岩手にかけて被災地を縦断した際に当地に宿泊して以来、5年ぶりの訪問である。当時、夜の街を歩くと、灯りが少なく街全体が沈んでいた印象を受けた。そんな中、被災されたであろうご夫婦が静かに営む小料理屋のカウンターで頂いた海の幸と地酒が無性に美味で、しみじみホッとしたことを思い出す。現在は、新しいお店や復興住宅が並びはじめ防波堤も建設中であるなど復興が進み街並みも大きく変化していた。そのためかその小料理屋を見つけることはできなかった。こうした街並みの変化以上に驚いたのは、お会いした気仙沼の方々が街の現在・未来を熱く語る姿であった。今回の「地域の底力」の青森県弘前市でも、新幹線開業を契機に地元の活力が一段と高まっている。都会では地方創生について疑問の声も聞かれるが、各地を実際に訪れると、自らの意思で立ち上がる「志民」が着実に増えていることを実感する。今後もマクロ統計に現れない地方創生の姿を地道にお伝えしていきたい。（鶴海）

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2017年秋号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

銀行は全ての評価項目において認定基準を満たしました。
▼日本銀行は、今後とも女性を含む多様な職員すべてが能力を十分に発揮できる環境づくりに取り組んでまいります。

「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一七」の開催

▼日本銀行本店では、夏休み期間中の八月四日、七日～十日に「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一七」を開催しました。見学会では、本店見学やお札に関



8月10日には黒田総裁がサプライズで登場しました（撮影：谷山實）

する体験学習などのプログラムにご参加いただきました。

▼また、ご好評により今回で五回目となる中学生対象の「金融



金融政策について議論する様子

政策を決めるのは、君だ！」を実施しました。グループに分か

れて架空の経済ニュースをもとに景気・物価の動向とそれを踏まえた金融政策について議論し、最後には、実際の金融政策決定会合と同様に、議長が政策を提案、メンバーの多数決で決定しました。参加者からは、「金融政策がどのように決められているか分かり、勉強になった」などの声が聞かれました。
▼毎回好評をいただいております見学会の次回の開催は、春休み期間中を予定しています。どうぞご期待ください。